

サバンナ

首を傾げたヘリウムランプ
店じまい張り紙の奥で
壁際に佇む置き物の豹
懐かしい冒険譚に
呼び戻されるように目が合った

古傷が疼いても
この牙はもう誰にも噛みつきはしない

ひとり
長い歩道橋の上から見わたす街
小石を投げたら
夕日が揺れた
怖くなって
息切れするほど走りつづけた

柔らかくなくらやみで
ふざけ合った姿に
どんな意味があったのか

あの川の
せせらぎを聞いたことがない
いちばん低いところまで降りてみたら
黄昏の花に接吻できたのだろうか